

木戸川産のサケを使って
おいしく出来ました！

志賀 瑚々呂・鶴飼 夢姫

福島県立ふたば未来学園高校 平成31年度卒業生

志賀 瑚々呂

平成14年（2002）、いわき市生まれ。現在、大学1年。

鶴飼 夢姫

平成14年（2002）、富岡町生まれ。現在、専門学校1年。

私たちが学んだふたば未来学園高校には、「未来創造探求」という授業があります。震災後の双葉郡の課題を解決するために生徒独自の視点（テーマ）で研究し、卒論として仕上げます。初めは個別で進めましたが、テーマにつながりがあることがわかり、二人で研究することにしました。そのテーマは「双葉郡の漁業の風評被害の払拭」。まず、知り合いの漁師さんたちから取材。校内アンケートもとったところ「風評被害という言葉のイメージがよくない」という声が多く、私たちは「ネガティブイメージを払拭し、ポジティブイメージに変える」と宣言。先輩もお世話になった西野屋食品さんや木戸川漁協の皆さんたちに活動への協力をお願いしました。皆さん快く承諾してくださり、サケを主役にした商品開発が決定。二人で2種類の味とラベルのデザインにもこだわり、「木戸川^{きり}鮭フレーク」の誕生になりました。この鮭フレークから双葉郡の漁業再生を感じてもらえたらと思います。この商品をきっかけに双葉郡に関心を寄せ、大勢の人に足を運んでもらえたら嬉しいです。私たちもこの活動を通して地域社会に少しでも貢献できたのではと希望を持つことができました。



「木戸川鮭フレーク」をPRする志賀さん（左）と鶴飼さん
【2019年9月16日付福島民報掲載写真】